

承認	会長	書記	書記	事務局長

議事録

第5回常任理事会（市議会議員との懇談会）を開催しましたのでその内容を報告致します。

平成31年1月28日

松阪市自治会連合会 事務局

日時	平成31年1月24日（木） 13:30～15:40	場所	松阪市役所 議会棟委員会室
参加者	常任理事：小山、山本、瀧本、松本、中西、三室、朽木、池田、若山、梶間 以上10名 市議会議員：中島議長、堀端副議長、久松、松岡、山本（芳）、坂口（代理）、濱口 以上7名 議会事務局4名、企画振興部1名、事務局2名		
<p>I. 挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・司会進行役の松岡議員 ・中島議長 ・小山会長 <p>II. 懇談（意見交換）</p> <p>1. 市議会の議員定数について・・・資料1</p> <p>○中島議長より、資料にもとづき説明。</p> <p>小山：人口密度からいくと、松阪市は決して28名で多いとは言えないと思うが、現状において、今までさまざまな、前回の市長選挙においても、46.何%とかなり低い投票率だった。したがって、それに伴って議員に対する市民の思い、何か欠けているような気がする。これは我々の責任でもあるかと思うが、そういう面。そしてまた、前回、県議員に市会議員から3人出られ、25名で議会をやっていたと思うが、不自由はなかったか。それを聞きながら、今後の松阪市の財政情勢も考えながら、選挙率の低さも考え、そしてまた、もう一つは、18歳から選挙権が与えられるので、かなり選挙人がふえたにもかかわらず投票率が稼げなかったという、これはどこに原因があるのかなど、我々も独自に、個人的に考えておるところもあるが、いろいろ吟味してみると、このままの定数でいいのか。考える余地があるのではないかと、そういう懸念もせんことはないの、その点もまた踏まえて御回答願いたい。</p> <p>中島議長：投票率の低下は、真の原因はどこにあるのかということとはなかなかみづらいところにある。大きな国政はともかくも、地元に着した市議の選挙において過半数に行かないということは、本当にこれはゆゆしき問題だと思う。私たち議会のほうにも、それをきちっと市民の間でアピールしてこられなかった部分とか、議会というものもどれだけ機能しているんだというふうな市民の方々の御批判にもきちっと応えることができなかった部分も確かにある。議会側のほうにも責任は重々感じている。その点も含めて、きょうのもう一つの議題である報告会等を通して、市民の間で議会のあり方についてしっかりと知っていただくのがまず第一かなと思うし、お手元にお届けさせていただいた「松阪市議会のトリセツ」というのがあるが、これは11月に松阪市内全域に配布をさせていただいた。実際、どなたでもわかっていたかどうかがちょっと心配なところもあるが、そういうことも含め、そして、議会に興味を持っていただくいろんな方策を考えながら我々は進めていきたい。今回の定数の問題で、今、県議</p>			

のほうへ3人転出したときの25ではどうだったのか。これも、調査会のときにある程度議論をさせていただいたところ。市民の間からも、3人減ったって普通のようにやっておったやないかというふうな御意見があったのは事実。よりよい意見とか地域性も含めた議員活動の中では、必ずしも定数が減ればよいというものじゃないというふうには思うところもたくさんある。少なくなった中では、地域の声が全く届かなくなったという声とか、その辺もあるが、我々は、地域性はもちろんのこと、市全体に対する議員ですので、そういうところも連携をとりながらやってきているが、まだまだ不十分なところがあるかとは思っている。3人減ったときの状況と言われると、やっぱり28できちっとした委員会活動やその辺も通した関係があったほうが私はよかったんじゃないかなというふうには思っている。必ず3人減ったからそれでうまくいったかということとは少し違うというふうには考えている。もう一つの18歳の問題ですが、なかなか若い人ほど政治や議会のほうに興味が薄れているというところもあり。研修の中で、市内の高校を訪ねて市議会のことについて話したりする出前講座みたいなのが実施されている、予定されているという話もあるが、やはり高校生の中には有権者とそうじゃない方と、18歳からですと、微妙な3年生の部分とか、受験やいろんな中で余り政治色を出すことがどうかなということに難しい動きかもしれないが、私たちも本当にいろんなことを通して投票率アップにつなげていく努力はしていかなければならないなというふうには考えている。

小山：16万5000人弱の市民の中には、投票権はそれの何%だが、本当に地域性と言われるけど、このごろ地域性が薄れてきたのかなと。現状において、飯南、飯高に議員がいなくなってどういう答えが出てくるかと。中には、別に地域に議員がおらんでもええやんか、そういう本当に投げやりの意見を聞く場面があり、そこら辺はえらく気にせんでもええんかなと私は思う、松阪市全体が大きくなったということで。ただ、飯南、飯高の場合は面積が広いので、そこら辺はやっぱり、議員がみえないのは確かに不自由な面もあるかなと思うが、自治会長の皆さんが一生懸命地域のために、その点では、議員のまねはできないが、フォローさせていただいておるんかなと、そんな思っている。したがって、いろいろ我々、今一番何を心配しておるかという、市の予算の削減の面。例えば、私たち、地域において何十年とやってきた行事、イベントが、わずか30万円、50万円の予算がカットされている。ことし4月から一つの行事ができなくなった、わずか30万円の予算。そういうことを市民が身近に感じておるので、失礼な話、議員3人減らしてもやれるのであれば予算面でも助かるのかなと、そんな単純な考えの市民が多いので、議員の活動というのは、確かに6人、7人の委員会の活動は要るのかわからないが、市民はそこまで考えていない。そこら辺をもうちょっと市民にわかるように、どこかの形で理解が得られればクリアできるのかなと、思っている。

久松議員：予算の削減は、総務のほうでも議論をしているが、松阪市は決して今予算が少ないわけではない。財政的に困難にはなっていない。これは私個人でやったわけではないが、本会議のやりとり、あるいは予算、総務は歳入、あるいは財政問題をやるので、財政調整基金という一般的には一般会計の貯金だが、これも、ことしは北部の給食センターとか鎌田中学とか、粥見小学校とか、100億円あったのを30億円取り崩して予算を組んだが、実にこの間の12月にもう86億9000万円になり、70億円でスタートして16億円返ってきて、今度の予算、恐らく100億円近く、入札などの仕事の差金とかが返ってくるということがあって、これは決して全国的にみても低い数字ではない。無駄な出費をしているというふうには思っていない。かなりそういうところのチェックは議会できちっとかけているというふうには思っているので、その点はかなり安心していただけるのではないかなと思う。3人減ったときは、仲よくやっているが、やっぱり大変な部分もある。特に広域議会とかそういうところに行くと、3人いないと、頭数が足りないと言われれば困った。消防議会とか衛生協同

組合という広域議会、今でいうと明や多気と一緒にあって、あのときは松阪の議員の数が足りないの、本当にやっどこさ成り立っておるぐらいのことがあって、私は今、28人の定数は最小限の定数かなと、これを減らすとその組み合わせ自体をもっと変えないといけないので、それを減らすということになるとまた議論ですが、財政面で云々ということになると、そんなに割合があるということにはならんかと思う。ただ、投票率の問題は、議会改革のほうでも「松阪市議会のトリセツ」というのをつくって、少しでもアピールする、それから、議会、どうでもと言われると本当に困るわけで、議会がきちっとやらないと、皆さん方の予算の議決は議会がやりますし、そういう問題というのはきちっとやっていくんですよというのをやっぱり知っていただく、その努力はしていかなくやいかんということ、これも100万円ぐらいのお金がかかっているが、そういうのは必要な経費だということは思っている、財政面は、とにかくこういうことが減らされたら困るということは、やっぱり私たちは勉強させてもらって、必要な予算は必要ではないかということは声を上げていかないとはいけないと思う。

小山：確かに大きな予算では先ほど説明されたようなことで、なかなか反映していただいていると思うが、特に今、住民協議会ができて、地域のことは地域でやらないかんのやと言いながら、地域の皆さんが一生懸命ボランティア活動をしながらかん、イベントに協力している。その中で、一つの祭りにしても、特に飯南、嬉野の方面では祭りが非常に、このごろは協賛金なしではやれないという状態と思っている。さっき大きな数字を挙げていただいているが、この間の予算を見ても、民生費が250億円ぐらいいっている。民生の予算か何か、そんな感じがしたんですけど。そんな感じで福祉、介護にかなり予算がいつておるわりには、小さいまちのイベントに、私のところ、小さい村ですけれども、500人も600人も参加できるような祭り、あるいは2000人も参加できる祭りにわずか30、50万円の予算をカットされてこれができなくなる。地域のことは地域でやりなさいと言いながら、何か反比例しているような感じがするので、そこら辺をもうちょっと予算をもうちょっと配っていただけて協力していただくとうありがたいな、このように思っている。

山本議員：予算絡みにおいて、本当に我々ももっと注意をしていかなければならないかと、これから、やっぱり取捨選択をしていかなければならない状況にあるので、我々ももっとしっかりと精査をした中で、ある議会では、せんだって守山市というところへ行かせていただいたが、守山市議会では、今、前民主党政権のときにされてきました事業仕分けを議会がやっている。その予算を見て、それが妥当かどうかというのを徹底した格好で項目を絞った中で検討して仕分けをしているというような状況もあり、そういったところも議会の大きな役割かなということ、改めて感じてきた次第。それと、先ほどトリセツの話が出てきた。トリセツというのは、西野カナさんが歌で「トリセツ」という歌を歌われており、それにちなんで形で取扱説明書ということで、議会の取り扱い、トリセツという格好でつくらせていただいて、本当に子どもたちから若い人たちまで、まず議会を見てもらおうという形で、18歳以上の方が選挙権を持つという中において、ここへ出向いてトリセツをしながら、議会はこういうものだというところも、高校へ出向いたり、小学校へ出向いたり、中学校へ出向いたり、これからこれを持っていろんな展開をしていきたいかなという形でこれをつくった次第。それと、このトリセツを始めるきっかけは何だったかということ、松阪市議会と友好都市関係にある会津若松市であるが、蒲生氏郷が転封をされたところですが、そこと友好関係をしている。そういった中で、会津若松市が、これは議会改革の全国ランキングがいつも出ているが、松阪市議会、百何番やったと思うが、いつも上位にランクされているのが会津若松さんだった。我々、それを狙っているわけではないが、やはりそういった中では会津若松への研修は必要ということで、研修にお邪魔してきた。議会白書というのをつくられて全戸配布をされて、まず議会ということを知りた

こうということが一つと、もう一つ気になったことは、私たちは四つの常任委員会がある。ここに今並んでいる、総務、環境、文教、建設と、この四つの常任委員会があり、各常任委員会が大きなテーマを持って、1年、2年かけて、そのテーマに沿った格好で研究し、視察へ行き、自分たちで、議員間で議論しという形で政策提言をどんどんしているというような形で、すごく常任委員会が充実をされて、市長部局へ政策提言をしているというようにところを見せていただいた。昨年ですが、松阪市議会も総務委員会のほうでは、後段にあるが、報告会であった地域防災についてという格好の御意見をいただいた中で、それを市長のほうに意見書という格好で出させていたということもあったし、ブロック塀の関係で、民間に予算がないのかと。学校のほうの公共施設に対してはすぐさま対応したわけですが、通学路等のブロック塀に対してはそういった予算はないのかという格好のことがあり、それも協議をいただいた中で提言という形で市長のほうに申し出たら、すぐ、11月には市長のほうで予算をつけてくれたということもあるので、そういった意味合いでは本当に、どんどん常任委員会がいろんな議題に対して、皆さんの御意見に対して、しっかりとそれをもんで、市長、部局へ提言していくと。やはり、市議会に意見を申してよかったと言えるような議会をつくっていかなくともいいかなということですから、これからは、そういう意味では常任委員会がすごく充実をしていかならんのかなということであり、そうなる今の定数の7人というのが、四つの自治会ですから四七二八名で、7人で構成をしているが、やはりそれぐらいの人数がいないと反映がしにくいかなということで、我々も今28人で、あとまだ任期があるので、その任期の期間は、しっかりとそういった方向に向けて頑張っていきたいかなと思っている。

山本：経費は大丈夫ということだが、一応、4委員会の7人で28人が適切というのは、議会の言い分というか、やりやすい人数は28人ですよと言っても、それが今、住民協議会と自治連で検討しているが、この先、人口が減っていくと、松阪市はどうするのやと。地区がもっと頑張ってもらわなやれやんと、市は必死になってやっておるが、この28人を果たしていつまで負担し切れる松阪市の財政が、大丈夫やと言っておったけど、いつまであるかどうかということ、先を見据えて危ないなというのやったら前もって減らすということも示してもらったほうが議会が健全に動いておるなということがわかると思う。28人、大丈夫やというのならそれでしっかりと、ちっちゃいところの祭りにも予算が回るようになるぐらいのお金があるならしてやってもらったらいいいということで、そのように先に、市としては、人口が13万ぐらいになると違うかということで必死になってもがいているときに、それに合わせて28人に固執せずに、減らさんならんということもあるのかなということも頭に入れてもらって活動してもらったらどうかと思う。

久松議員：そこまで人口比で、さっき大丈夫だと言ったのは、今の財政状況は大丈夫。先々、13万とか12万に減っていくということになったときは、それは当然、我々もその点は見据えていくことはできると思っているし、ただ、広い面積とか活動の状況とか、今おっしゃっていただいた祭りの予算の変化とか、そういったものについて、別に大きいものだけ論議するわけではないが、今のは非常に貴重な御意見を聞かせていただいたが、別にそういうことはやぶさかではない。今大丈夫かと言われると、今の松阪市の財政状況は、かつて財政状況が硬直化しておるとするのは過去の話だとはっきり言いましたので、その点は、当面といたしますか、10年、20年続くかとか、それを毎年議論するわけですから、その点はしっかりやらせてもらえるとは思っている。

山本：財政でも何でも、赤信号がともってから慌てずに、黄信号ぐらいになってきたときにもうちょっと動いてもらうとか、青信号が点滅したところで、皆さんは機を見るに敏やと思う。そこで判断してもらって先に手を打ってもらったらええと思う。

小山：できれば早い目のうちに削減できるところがあれば削減をして、議員定数を減らしていただきたいな、本音はそう。もともと申しますように、市民はそんな思いでおる。

なぜかと言ったら、先ほど言った小さい地域のまちの予算まで削られるような、我々がこんな身を削るのに、やっぱり議員もそこら辺を考えて、確かに運営面では28人が妥当かわからんけれども、近い将来は3名ぐらひは減らしていただきたいな、そんな本音の思いがある。今、あせいこうせいという議論ではないが、何もかもがクリアできれば、投票率、あるいは先ほど言った小さいまちの予算、いろいろ吟味して細かいことを考えると、市民の方はそう思ってみえるのが本音やと私は思っておるので、その点、よろしくお願ひしたい。

中島議長：例年、自治連の皆さんから定数削減についての御提言をいただいておりますというのが、今まで重く受けとめさせていただく中で議会で議論をして、定数削減に取り組んできた。議会改革の特別委員会はずっと継続をしており、久松委員長のもとで議会改革のあり方、議会活動についてのあり方も含めてだが、そのうちの一つとして、議会基本条例をつくったときに、定数の問題、報酬の問題はいつもきちっと検討しながらやっていくというふうなことがちゃんと条例にもうたっているのです、その分、今、28が適切かどうかは、いろんな御意見があるのは重々承知をしているが、私たちもその中での議論で、前回の選挙のときには28が適切ではないかということで据え置いたという経緯がある。将来的な人口削減や財政的な問題も含めて推移をする中で、我々も、当然そのときはそのときで議論をする中で、今さらいろんな意味で定数をふやすということはありませんことだとは思ひ。これも、3人減ならそれでいいのかということでもないし、適切な議論のもとで定数について、また、報酬についても考えていかなければならないと思ひている。このごろ、世間では地方議会のなり手が少ないということで、定数ぎりぎりの選挙が、無投票でということもある。しかし、民主主義の中で選挙をするということは大切なことだし、当然、市民の方々が議会や政治に関して、行政に関してということだが、松阪市の運営について、4年に1度でもきちっとした判断をさせていただくのは大きなことだと思ひている。もう一つの二元代表の中で、市長選挙がことしの秋、9月に行われるということだが、市長選挙も含めて、いろんな議論の中で議会のあり方、そして、松阪市のあり方については、今後も続けて検討させていただきたいと思ひます。地域のそういう予算については、予算というのはトータルの話。この先、人口の減だけではなく、その内容についても税収のいろんな難しい面は出てくるというのは、もう目の前に来ておるので、この辺も含めた議論をさせていただきたいと思ひている。

2. 議会報告会について・・・資料2

○松岡議員より資料にもとづき説明。

小山：議会で、条例で決められてこういう報告会を行っているが、11回見てみると、1会場大体13名ぐらひかなと。これで果たして本当に市民に議会報告ができたかなというのが不信感に思ひます。この中へ本年度は行政としてこういう事業をはだてるんだからと、これに対して市民の皆さん、御意見はどうですかという、一つのテーマを挙げてお聞きしたら、目標を立てれば気のある人が出席なさるのかなって、そんなような気もするが、あくまでもそれは例えばの例で、必ずしもそれが成功するとは限らないが、一つのテーマという、提案として。例えば、今ですとフルマラソン。これに対しても、かなり気のある人がいるので、こういうテーマがあるんですが、皆さん、これに対してどういう思ひですかとか、いろいろ問ひかけていただいたら、それに対しての方が、また出席率がふえるのかな…と。

山本：議会報告会に参加してはと、誘うんですけど関心がないというか、済んだことを聞いて何とするのやと。何かテーマって言えるなら行ってもいいけど、済んだことをああしたこうしたと聞いて、それでどうするのやという意見が周りは多かった。それと、皆さん、報告で説明していただくが、やっぱり議会報告会って議会を代表して言われているので、何も発言におもしろみがないというか、個人の意見を出したらあかんの

やでそうやと思うけど、こういうことって言うだけで、この間、殿中であつたが、初めから意見を報告させてもらう会であり、皆さんからの意見はいただいても反映できませんというような発言があつたので、そういうのなら来て、言ってもしようがないなというのがあるので、一応皆さんの意見を聞かせてもらうということも前提に、報告会というのをもうちょっと意見交換会か何かに変えてもらったなら、もっと意見を言わせてもらおうかという人も出てくるのかなと思う。それと、橋西でやってもらったときは結構人の集まりが悪くて、テーマが地区に大きすぎて絞りきれやんというか、それで関心がある人も来んのかなわかりませんが、この間、殿中に行ったときは二十何人来て、殿中であるということは学校絡みで、ちょっと学校のことを言いたいなという人がたくさん、行かせてもらってもほとんどの意見が学校に関しての意見。ということは、今言われたようにテーマを絞る。場所が場所なので、参加者がテーマを絞ってきてもらったので結構活発な意見が出たということになったから、そこら辺、もうちょっとテーマを絞るか。学校によっては、西中なんか2人というのがどうかわかりませんが、開催する場所によってもまた違う意見が出ると思うので。報告会、ただ単にパワーポイントでいろんなわかりやすい報告をしてもらうが、それを聞いて、それに対してどうやと突っこんでも別に、いや、こうですわというぐらいで、済んだことの報告ですので、今言われたように、こういうことが起こっておるけどどうやろうという意見を聞かせてくれということならもうちょっと意見が出るかなと、参加者も多いかなとは思ふ。

瀧本：私はまだ出たことがないんです。それで、参加者の意見をずっと見せてもらっておいたら、自分らと同じような意見、質問をされておるなという感想を持たせてもらった。その地域に応じたものを、面倒かもわからんけれども、飯高ならいっぱいある。人口減の問題から、それに伴って空き家のこともあるし、人材のこともあるし、あと10年もしたらもう自分らの住んでおるところが草ぼうぼうになってくる、これ、どうなるんやろうなど。跡継ぎのことを考えても、跡継ぎは、もうお父さん、お母さん、畑も山も要らん、負の遺産は要らんという。相続税を払っていかなあかんでって言うとおると、相続の放棄すると。固定資産税も、そういうことができるかどうかかわかんけれども、そのような地域に応じたテーマを設定してもらったら、もうちょっと皆さんの集まりもようなるんやないかなと思ふ。

松本：今、報告書を見ていくと、やっぱり地域によって関心のある地域と関心のない地域があつて、私は第二地区、久保中地区に含んでおるんですけども、これが7名という数だが、第二地区というのは特殊なまちで、結局、歓楽街もあれば競輪場もあり住宅街もある。それによって、どれだけ議会に興味があるか、関心があるかというのが私としては疑問。それで、この報告会も第二地区、公民館で開催されるときでも、私が2回程度行かせていただいたが、時間的に商いもしているので都合の悪いときもあるし、やっぱり、その地区によってインパクトのあるテーマを考えてもらおうという感じで、報告会というよりも何かインパクトのあるものに名前を変えてもらい、魅力的なものに議会報告なり懇談会なり、それを持っていくと、その地区に対してちょっと反映するかなというような気もするし、なかなか議員との懇談会で、あれも言い、これも言いたい人はいる、いざ目の前にばつと座られると、なかなか意見が言いにくいというのが本音であり、難しいところがあると思ふが、その辺のところを議会でいろいろと、今後もこの人数以上に出ていただくような報告会とか懇談会とかというような感じで持っていていただくとありがたいと思ふ。

中西：私のところの徳和地区は、全部そろっている。病院から、あゆみ特別支援学校、そだちの丘、私立の高等学校、中学校、小学校、全部不足のない地区で運営している。そこへ議員報告会をされてくると、テーマというのが選べないとか、そういうものがある。それで、私のところの欠点、これはいいところでもあるが、欠点というのは、団地がかなり多い。大きな1000戸以上の団地が幾つもある。それから、昔ながらの

いわゆる農家、蔵のある資産家の農家、そういう人らのところとの自治会運営がすごいギャップがある。農家の人と昔からの人と。運営しているのが、大体旧家の人らが役職の長についている。そうすると、若い人らがついてきてくれない。50代の人で参加というとはほとんどない。何もすることがない、言うところがない、そこでも言うところから抑えられる。それを何とかしようと思うと、その人らがいなくなるとだめやなとよく言うんですけど。言う人によっては、団塊の世代がおらんだったらとするんやと。担い手が50代の人、誰もおらんやで、報告会に50代の人何人いるか、勘定したことあるか。いないと思う。それで市政の運営ができるかと言ったら、疑問。何をしても不自由がない。でも、やっぱりお金がいる。一番言えることは、松阪市、日本全体で、かなり皆さん、生活程度はよくなった。食べられないという人はいない。田舎のところで百姓をやっているような人らを引っ張り出そうといったって、もう意識なんて全然ない。何とかしようかと思っても、生活程度が食べられたらええという気持ちでおるで一番困る。一番テーマでそういうのを何とかせなあかんかというのはやっているがなかなかいかない。そんな中での報告会をさせてもらって、1人でも多く寄ってもらってくれと言ったって、ちょっと漠然としすぎて前へ進まない。だから、ある程度は寄ってくるんやけど、人数が少なくなる。それから、松阪市全体で真ん中の地区というのは、ドーナツ現象で担い手がいない、年寄りばかり。そういう人らの中で運営していく。そうすると、やっぱり住んでいる人らもおる。行政の運営というのは公平というのが当たり前なのに、その人らがいる。側溝のふたがとれておるで直してくれと言ったって直してくれへん。飯高やあっちのほうはすごく金をかけておって、わずかな金のところは、もう3年言っておっても直してくれへん。あっちのほうは何千万って億の金をかけておって、我々のところの少ないのは何年もふたをかえてくれやんのやで。それは、真ん中のええところに住んでおる、ええところじゃないけど、そういう苦情が出てくると返事ができない。やっぱり比率と人口と生活程度と比べて難しいんやけど、上手に運営していただきたいと思う、それは均等に。そうすると、その人らに返事ができるので、それをお願いしたい。

三室：花岡地区ですので、本来2万人おるはずの人間が、議会報告会になるとえっというぐらい出てこない。例年、私も6年間見てきて二十数名でしたので、去年の春は、ともかく自治会長は2人連れてこいと。3人集まれば32自治会あるから100人集まるだろうと。実際に集まったのは70名近く集まってくれて、このトリセツの25ページにある左側の多い人数を写してある写真の左側のほうなんですけど、確かに中身が大事とはいえ、人がたくさん集まればすごい意見が出て、活発で、私も今までの12回の会合の中でこの議会説明会、12回あったかどうか知らないが、非常に活発で気持ちよく終われた。やっぱり人を集めるということは大事なことだなと感じた。そこで、中身も大事だが、人が集まるという、そういうことを我々も協力しなきゃいけないと思いながら、秋のほうは場所が中学校でしたので、こっちの責任が大分免れたので、皆さん必ず行ってやってくださいよというぐらいで、100人集まれとは言わなかった。自分1人と、もう一人ぐらい何とか連れていけ、2人ぐらい行きなさいよと言ったら、集まったのは14名。中学校の出席率は1カ所を除いてみな悪い。やっぱり、私も2万人もおる花岡地区でたった25人ぐらいしか集まらんなら、そんなことでは恥かしいやろうと行って、かなりいきり立って集めた。それで70名近く集まったが、そういう集めるほうにも責任があるし、それは議会のほうの説明会の中身のおもしろさもあると思うが、やっぱり両方がマッチングして協力しないと、せっかく来てもらって、どんなおいしいものでも食べやんだら味はわからないから、来ないということ自体が、そう言いながら、私も来年また人をよう集められるかわからない。これは物すごい責任を感じる、100人集めるというのは、本当に必死こいて2カ月前から何回もお願いして集めたが、春はうまくいったが、秋は気を抜いたら何と14名。これが現実だと思う。ですから、中身もさることながら、人を集めるということは難し

いことだなというのを痛感した。

朽木：伊勢寺のほうも、議会報告会、本当に少なくて申しわけないと思う。議会報告会自体が、私もちょっと疑問が正直あり、自治会の活動なんかでも、何か活動しておったらその地区のその者が報告する。また何かあったら、その者が意見を集約するというんですか。自治会の活動の場合はほとんどが、私らもほかの自治会長らも皆一緒なんやけれども、以前の地域の小間使いみたいな格好で意見を聞いて、苦情やいろいろな意見を聞いて上げていくというような格好で動いておることがあって、こういった意見交換会も、どこの会場も最終的にはやっぱりその地域の方がその地域に接した議員に本当のことを聞きたい、聞きたいとか、そういう気持ちで本来はそういう場があるべきなんじゃないかなって、私らからすると、面と向かってその地域の議員がみえると、立場上ちょっとという場合もあるのかもわからないが、それを抜きにして、やっぱり地域から上げていただいた議員が来ていただいて、そういった地域のいろんなことを聞いてもらって、それをまた議会へというんですか。全部が全部、当然上げることは難しいかなとは思いますが、それは、いっても、やっぱりそういうのを聞いていただけるだけでも、地域の方の議会に対してのつながりはできるのと違うかなという気もせんでもないと思う。それと、前の資料で、こちらの議会の定員に関する最後のほうに資料で、松阪市がほかの地域と比べて議会の会議日数が200日と結構多い日数になっているが、その他のいろんな関係の会議というか、その中にこういった報告会、これも含まれているのか。これを見る限りでは、津市の倍以上の会議日数があって、議員がすごく多忙で、やっぱり地域のそういったいろんなことを見て回ってもらえる、聞いてもらえるような活動ができるように、議員がもうちょっと解放されて、会議日数を逆に減らしてもらって、津市じゃないけど。もっと減らしてもらって、地域に密接した議員活動ができるような。それができていないので、やっぱり地域の議員に対するつながりが弱く、不信感がだんだん広がっておると違うかなって。ここでなんぼ会議をされておっても、地域とのつながりがどうもないのかなというところも、つながってへんのかなと思ったり。今の報告会も一緒だが、ちょっとそういった形でお願いしたいと思う。

池田：昨年11月に東黒部の東部中学のほうへ出席をさせていただいた。聞かせていただき、議員もいろいろ活動していただいておりますものについて、報告については、正直言って、なかなかわからん部分の中でいろんなお話を聞かせていただき、参考になる部分というのは多々あった。しかし、今までも我々の委員が言うように報告だけで、何かメリットになるような話がもう少し聞ければ出席される方も多くなるんじゃないかと。私も正直言って初めて参加させていただいて、どういうものかなというのがわからなかったので行かせていただいた。やはり東部のほうは出席率が悪いというふうなお話も聞いていたので、東黒部の地域も優秀な人材がいなくて…。ですから、そういう部分も含めて、関心度というのが薄い部分がある。やはり地元の方が出ていないとなかなか関心も薄くなるというふうに思うが、これは仕方がない、現実がそういう形なので仕方がない部分はあるが、その中で我々役員が行っているいろんな話を聞かせていただいてということで、5人中2人しか行けなかったので申しわけないと思うが、あとの方には一応報告をさせていただき、聞くことについては参考になるけど、いろんな意見も出るとは思うが、やはりそれをなかなか全部、100%意見を通してもらえるということはまずあり得ん部分があると思う、ある程度そういう部分をまた地域化した形のね。一つ疑問に思ったのは、その報告のときに、ええほうのアンケートかな、とってもらったときに、パーセントがかなり上がってということで聞かせていただいて、松阪市は比較的いいのかなと思っておるんですけど、100%にはなっていない部分ということは、やはりまだまだ見えない部分ではあると思うので、そういう部分をもっと追及して、100%になるような形の市とのやりとりはしてほしいなというふう思う。だから、報告をいただいて、それで満足をしてもらわず、その上を目指

して、やっていただきたいと思う。

若山：声かけも実は余りやらなくて参加をしたが、入ってすぐの印象としては、もったいない会議をしておるなという印象を受けた。というのは、23人かな、きょうの資料を見せていただいていると、参加者があって、それなりに意見はいろいろ出されておったんですけど、あれだけ議員の方からも来ていただいて話し合いをするということであれば、もっと寄ったほうがいいよなど、もったいないなという印象。きょう、ほかの地区を見てみるとさらに少ないという話を聞いておると、さらにもったいないなという感じがした。それと、これは議会報告であるためにこの点については回答できない云々というような、やっぱりそういう話が出てくると、参加者からもトーンが気持ち的に落ちて、そういったところもあるのではないかなというふうに印象としてあった。だから、そういう意味では、政策づくりをしていく意味で議員たちがヒントをいろいろ、とにかくそこで吸収していくということで、もっとフリーに意見交換をするという形もいいかも。それと、やっぱり意識的に自治会の中で何人かお声がけをすれば参加はしてくれると思う。そのときに、ただ文書がぽつと来て、私も初めてやもんでとにかく一遍参加してみようと思って行ったが、事前にやはりそれぞれの地域で特に問題になっている課題というのがあると思うが、そういったものをある程度事前に自治会あたりから吸収していただいて、それをもって、そこにある程度焦点を当てて話し合いをするということになれば、より深まっていくのと違うかなと、そんなふうな印象を受けた。

梶間：議員の皆さんには、こういった議会報告会ということでいろいろやられておることに対しては大変敬意を表したいと思っている。基本的に藤之木町というのは自己完結型でやっている。議員の皆さんに余り迷惑をかけないと言ったらおかしいな、余りあてにしないと言っても、ちょっとこれも言い過ぎかもわからないが、とりあえず自己完結型という形で、先ほど、イベントには金をということだったが、全て自分らでもうけた金でやると。我々の藤之木町は、ことしのNHKの農業大賞で大賞をとり、全国大会に出る。また、もう一つの団体では、県がやっている農地・水・水土里ネットというのがあるが、そこでもことし、優秀賞という形で表彰された。基本的に我々藤之木町独自でやっているのが現状。議会報告についてどうのこうのという、先ほどの市議会の定数についてというようなことで話があったが、私としては、ふやすということは余り賛成できないが、報酬が云々というのは、幾ら報酬を上げてもらっても構わないと思う。そのかわり、それなりの仕事はやってくださいということになるので、その辺は皆さんの意識を高めてもらわなあかんという形になるというふうに私は考えている。やはり松阪市の皆さんが、市会議員の皆さんは、ようやっておるなと言われるのが第一だと思う。今現在議員定数が28名、30名として約9名、20名ぐらいに減らしてほしいというのが、それで成果を上げてもらって給料を上げてもらったらよろしいというような考え方が私の考え方。今現在、松尾地区、または藤之木地区として要望しておるのが、アドバンスモール、田村高須線という線があって、アドバンスモールでとまっておって阪内川を横断していないのが今の現状。それについては、私が自治会長になった二、三年前から県に対して要望しておる中で、ことしは回答が来た。その回答には、多気バイパスもほぼ完成した、松阪のアンダーパスもほぼ完成した、それから、松阪インターから23号線につながるアクセス道路もほぼ完成したということで、予算の問題はあるが、順次検討はしていくという回答があったが、市会議員の皆さんも十分その辺は認識しておいていただきたいなど。金のかかる仕事で、私が動いてやれるわけでもないし、その辺はよろしくお願ひしたいなど。それについては、田村地区、松尾、伊勢寺、日丘、その辺はいろいろ要望がありますので、交通安全の面、それから、交通の渋滞の面を含めていろいろ検討していただきたいというのが私の要望。

松岡議員：先ほど、議会のこれまでの経過等、29年7月のところの改選を終え、9名の新しい議員の方が議員になられ、そのときの秋の議会報告会をどうしようかという議論をしたときに、28名の議員の中で議会報告会をやめようかというような意見も出て、そこで議論をしたが、何とか、一回立ちどまって議会報告の形を考えようということで、去年の春の10回から再スタートさせていただいて、少しでもわかりやすいように行政チャンネルを最初と最後に流したりとか、あと、ストーリー性を持った内容で資料をつくらせてもらったりとか、そういった試行錯誤もさせていただいた。それで、改選のときにいろいろ議論した中で、春は同じような形で予算の報告をして、秋は委員会ごとでやってみようかというような話も出た。委員会ごとになったら、そこへ興味を持ってくださって、そこへ人が集まるのではないかという意見も出た。10回の去年の春の議会報告会が、一番多かった、311名来ていただいて、すごくよかったので。秋は決算の報告になるが、テーマ設定のところ、やはり防災の次は教育ではないかというような議論がされ、当時、竹上市長が語る会をされていたので、中学校区で場所を変えるなら中学校でさせていただこうかということで、会場を秋の場合は中学校にさせてもらったが、私たちが当初、広報広聴委員会で練ったときは、自治会の方も来ていただけるし、教育関係の方も来ていただけるんじゃないかというようなこともあり中学校でさせていただいたが、やっぱり教育問題ということで自治会の皆様はちょっと敬遠された部分もあり、参加的には159名という数字になってしまった。そういった意味で秋の部分を、春はたくさん来ていただいたので、春と同じような形でしてしまっ、春のほうは代表質問の報告の内容で、秋のほうは常任委員会の報告のような形で多少は変わっているが、議会改革の委員長と広報広聴でお話をさせていただいて、いろいろまだ議論は終わっていないが、そういった常任委員会の活動を報告の中でやってみるのもいいんじゃないかなというような話が出て、まだ決まってはおりませんが、そういったようなことを試行錯誤の中で取り組んでいこうかなということで。なるべく最初の議会の報告の、今30分程度ですが、もっと短く、内容にもよるんですが、20分から30分の間でコンパクトに説明できればなというような形で今取り組んでいるところ。

小山：聞いていただいてありがたかったので、皆さん、思い思いに地域の課題があるので、議会報告前に地域の課題をこちらから提案させてもらって、議員のほうでそれに対していろいろと検討していただいて、答えが出ないところは出ないでよろしいんですけど。これに対してこういう回答やというきょうの懇談会みたいな形にしてもらったならええのかな、それも一つのこれからの懸案やと思うので、そこら辺をまた研究していただいたらありがたいと、よろしくお願ひしたい。

堀端副議長：1月は3回の視察に出向かせていただいた。やはりどの地域に行ってもテーマはいろいろあるが、最終的にはそういった議会としてどのように市民の皆さんにアプローチしていくかというようなところというのも多々出てまいるので、どうしても議会報告会もマンネリ化しつつあるということで、愛知県の岩倉市では非常に、ふれあいトークという、もっとキャッチボールするような、そういう形の意見交換会をしたという声が非常にあり、徹底的に市民の皆さんからの声に耳を傾けて、今そういう形で報告会を、ふれあいトークという形にどんどん移行していっておるというふうなことで、それと、若い人とか女性の人たちに参加してもらえらるための環境づくりもしっかりといろいろ声を聞いたりしてやっていくことが大事であらうなというような、そういう御意見が出ていたので、我々も検討していきたいというふうに思う。

久松議員：議会改革の基本条例ができたのが平成24年。もう6年たち、そのときから、この議会報告会はどういうことかと言うと、当時、山中市長の時代でしたので、議会は何をしておるのやというのがおおむね市民の皆さんの一般的な空気だった。だから、当然議会報告会はやらんならんとするふうな、まずそこから足を出そうというので、

初めは中学校区で本当に模索だった。そのときに住民協議会というのが確立してきましたので、43カ所を一遍回ろうじゃないかという形で、一つ一つは少ないが、トータルすれば300人集まって、1カ所で300人集めるって物すごく大変なので。これは、少なくとも私は粘り強くやろうということやってきたのと、先ほどの会津若松とかいろんな先進地へ行くと、皆さん工夫してみえる。その中で、基本条例をつかって、失敗したのが第1ステージとすると、今、第2ステージといいますか…。議会がしっかりしておると思ったら別に、定数にしろ、報酬にしろ、文句はないんやと、しっかりしておるかしておらんのか。今、山中時代に突っ走ったときみたいに、議会は何をしておるのやという空気ではないとは思いますが、議会が頑張っとうだなというのを、その間に、私みたいに古くずっとやっておるのもおりますけど、半分の方が交代している。それだけの方が交代して継続して、そしてまた新しい感覚でやろうというところで今苦勞して、次はどうやったらええだろうと。きょうは非常に貴重な御意見をいただいて、なるほどな、そうかなと思うことがたくさんあった。ただ、議会全体で動いていくとなるとシステム化しないといけないので、これをどうシステム化して。だから、もう一つ御理解というか、誤解があるといかんですけど、個々に言いたいことは、私らも逆にいえばいっぱいある。そうすると、議会全体として力がないと。こういうふうなことがある。いただいた御意見を一般質問とかいろんな手段があるわけだが、個々の議員が取り上げるということはないで、これを聞いてきた班全体で受けとめる。あるいは、それぞれの常任委員会で政策として受けとめる。そうしないと、1人が幾ら市長にはほえついても、やっぱりだめな。祭りの話にしろ、今いろいろ出た予算の話にしろ、聞いた者が全体にこなして議会としてどうするという話を持っていくように、まどろっこしいように見えるが、それが本当の力になるので、この努力は不断にやっていくので、またこういう機会をぜひつくっていただきたい。私としては、議会改革特別委員会としてお願いしに行くかわからないので、よろしく願いしたいと思う。

中島議長：いろいろ私も思いはあって、実際、皆、試行錯誤しながらここまで来た。報告書の一番裏にたくさん意見を書いていただいたが、これ、知っている人でして、この人に会ったときに、おまえらの話みたいなのはおもしろくないんやわと真っ先に言われまして、先ほど、御意見にもあったように、済んだことを報告するんやったらもうペーパーを回しておいてくれと。それで済むんやったら、わざわざ面倒くさい夜に行きたくないわと言って。その人も、集めていただいても、結局声をかけてもなかなか来てもらえやん。内容が、おまえらのおもしろくないんや、これなんです。しかし、そのときにお話しさせてもらったのが、私個人やったらもっとおもしろい話をしますよと言って、あることないことと言って。そうやけれども、議会報告会と議員の報告会とは少し性質が変わる、言いわけなんです。だから、もっとしゃべってもええと言われたら幾らでもみんなしゃべる、それぞれ思いがあるので。そういう議論を聞いていただく場とか、いろんな取り組みもしていかなあかんとは思いますが、おもしろくするには、本当に皆さんとの意思疎通がきちっとできないと、偏った意見を毎回言われる方もある。こういう御意見をずっと聞かせていただいて、こちらも対応しかねますとしか言いようがないと、おもしろくない話じゃないかと、こうなるわけ。だから、本当にテーマ設定も含めて事前に、中心になっていただく自治連の皆さんに御意見やテーマ設定の御相談もさせていただく中で進めていければというふうに思うし、研修の話がよく出るが、岩倉は、今回予算関係で報告会をさせていただくが、予算が決定するまでにやるそう、報告会のような形を、意見交換会を。ですから、予算の概要が出た時点で皆さんと意見交換。今度、こういう新規事業が出るが、皆さんの御意見はいかがですかとって議会が聞きに行く。それを質問にぶち当ててやっていくというやり方もあるそう。少しこれは問題点もあるが、本来、決まったことを、予算のときには議会でこんな話をしたという話を聞いてもおもしろくないですわね。むしろ新規

の事業に対して御意見を伺うような場、これは政策決定の中での話ですので、また報告会とは別の組み立てをすべきかとは思いますが、そういう形でもいろいろやっていたらなというのが今の委員長のお話ですので、議会が一団となって取り組んでいきたいと思う。2月、3月で予算議会が3月中に終わるので、それをもって4月に。こんな百姓の忙しいときに来ると言われて、でも、4月のときにできるだけ早くお伺いしているような意見を伺いたいという気持ちでお邪魔しておりますが、4月の中ごろにこの形も含めて、テーマ設定はぜひ御意見を伺いたい。きょう、本当に地域のいろんな話をお聞かせいただきありがたかった。もう少し具体的な話で、こんなことでうちのところへ来てくれるんやったらこんなテーマでやってみてはどうかという御提言をいただくと本当にありがたい。そうすると、皆さん、興味も持っていただけるし、実際、防災でやったが、沿岸部であれば津波だとか避難のあれとか、そういう話が出た。でも、この話を持って飯高へは行けないので、飯高は飯高なりのいろんなテーマ設定もあると思う。ですから、開催する場所はある程度決まってきたので、その地域に沿ったテーマ設定というのはぜひ御教示をいただければというふうに思うし、おもしろくしたいと思っているので、お願いしたい。

3. その他

- ・百条委員会について、もう少し方向性を定めて解明していただきたい。
- ・三重県初のフルマラソン、立派な大会を開けるようにしていただきたい。

Ⅲ. 閉会の挨拶

- ・堀端副議長

※終了後、常任理事会を開催する。(15:10~15:40)

I. 議題

1. 規定について

- 事務局より資料にもとづき説明。
 - ・自治会長バッチ貸与規定(廃止案)→承認
 - ・職員の給与規則について→報告
内規により、理事会にて報告する。

2. その他

- ・1/28に正・副で市長へ要望書提出。

以上